

極楽寺だより

長門市三隅下
野波瀬
0837(43)0625

いつく
慈しみの光あふれる春となりました。

いのち いぶき かん
生命の息吹を感じるとき、お浄土の人とな
られた方々が懐かしくしのばれます。

によらい
如来さまのおすくいのご恩、お育てのご

おん あじ
恩を味わい、仏祖のご恩を感謝して、春の

えいたいきょうほうよう
永代経法要を次のとおりおつとめしま

す。お誘いあわせ、お参り下さい。

日時 四月十七日(水)

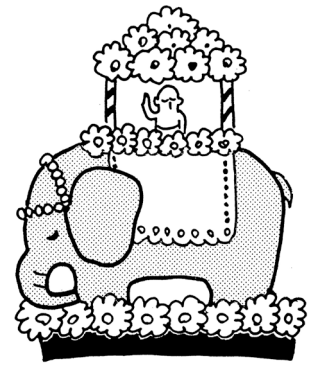
昼一時半 夜七時半

四月十八日(木)

昼一時半

講師 福岡飯塚市了専寺住職

細川 義朋 師



しゃか たんじょう いわ ほんどう
お釈迦さまのご誕生を祝い、春の法要の二日間、本堂に
はなみどう あまちゃ
花御堂を飾ります。ご自由に甘茶をかけて下さいね。

甘茶お持ち帰りをご希望の方は、どうぞお申し出下さい。

花まつり

春の永代経法要のご案内





毎日、お参りしましょう！

キャン・ペーン 第五弾

「見失っては、いせんか」

お仏壇ぶつだんは、単なる先祖せんぞを祀まつる場所ではありません。お仏壇は、阿弥陀様の国、お浄土を表します。お浄土を通して、仏様になられた亡き方なと出遇であっていくという形をとるのです。

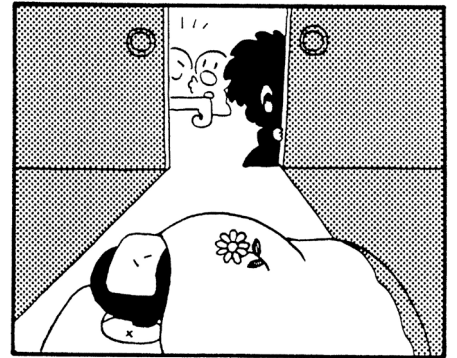
極楽寺のある長門市三隅地域では、都会と違って葬儀そうぎ会館ではなく、家での葬儀がほとんどです。すると、遺体いたいの前ではお焼香しやうかうし、手を合わせるけれども、お仏壇は素通りすどおされる方を時々見かけます。もちろん他宗教たしゆうきやう・他宗派たしゆうはの方もおられるからということもあるでしょうが、「葬式そうしきなんだから、まずは死んだ人を拜おがむべきだろう」という方も多いのではないのでしょうか。しかし、浄土真宗では遺体よりもまず、お仏壇に手を合わせるという形をとります。それは、亡き人を粗末そまつにするということではありません。亡き人を大切にすることがゆえに、ご本尊ほんぞんである阿弥陀様、お仏壇に手を合わせるのです。

最近さいきんは世の中全体が忙しくて、葬儀そうぎや法事ほふしの日程にっていを決めるのも、なかなか難むずかしい時代になりました。ある方の葬儀の前日、知りあいから電話があったのですが、その内容が「明日は友引ともびきだけでも、葬儀をしないのか」というものでした。「友引」とは、中国の暦れき、六曜ろくやうからきたものだと言われていますが、元々は「引き分け」という意味だそうです。ところが字面じづらだけを見て、「友を引いていく」から、引いていかれたらたまらないということで、その日には葬儀をしないという風習ふうじゆうになったとか。今では、すっかり定着ていちゃくしてしまいました。(韓国かんこくのホラー映画に、『友引忌ともびき』というものがあるそうです。元々の題名ちやくやくを直訳ちやくやくすると『悪夢あくむ』だそうなのですが、邦題ほんたいていとしてわざわざ付けたようです。困こまるんですよ。安易あんいに、こんな使われ方をすると。)でも、考えてみて下さい。あなたの友達ともは、あなたを巻まき込んで死いたに至いたらしめるような方なのですか？それは、亡き人に対して失礼しつれいに当たるのではないのでしょうか。とはいえ、周りの人から「友引」に葬儀そうぎをしてはいけなと言われたら、遺族いぞくにすれば不安な気持ちにもなります

し、大きなプレッシャーになるでしょう。でも今の時代は、日程的にやらざるを得ない場合もある。そんな時に、たまたま悲しみ事が重なったりすると、「ほら見ろ友引に葬儀をするから・・・。」これは残酷な言葉ですよ。ただでさえ悲しみの中におられる遺族の方を、更に傷つけることになるのですから。

こんな驚くようなこともありました。お別れの時に、ご遺体の顔を愛おしそうに撫でながら、涙をこぼしておられた方に、「お棺に涙をこぼしたら、死んだ人が後ろ髪引かれて、成仏できないから」と、二、三人で引きはがそうとされるのです。こんな考え方は、感謝の涙を、尊い涙を、貶めしてしまうことになるのではないのでしょうか。

※ 極楽寺では、友引葬儀について、きちんと説明をさせていただいています。しかし、関係のないことだからと無理強いはしていません。悲しみの中におられる遺族に、お寺からもプレッシャーを与えるわけにはいきませんから。但し、「これ以上、他の人を不安にさせたり、傷つけないように、関係ないと理解した上でして下さいね。」とお願いをするようにしています。



人間ですから、誰もが不安な気持ちと
いうものを抱えています。そして、誰も
が死や悲しみ事に出会いたくはありません。
しかし、不安な気持ちに流されてし
まった時、私たちは亡き人を見失うので
す。遺された方を傷つけてしまうのです。

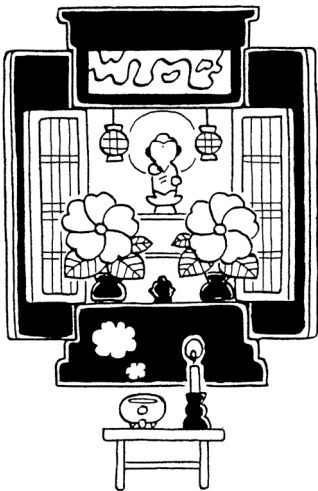
そして亡き人を、仏様から怨霊や亡霊へと引きずり降ろして
しまうのでしょうか。仏様は崇られません。崇るような仏様な
どおられません。だからこそ、私たちは阿弥陀様を通して、
お浄土を通して、仏様になられた亡き方と出遇っていくとい
う形をとるのです。

よく、「亡くなった人が迷わないように、成仏させてあげて
下さい」と仰る方があります。でも、私たちは阿弥陀様の本願
力によって、お浄土に生まれさせていただき、必ず仏様に成ら
せていただくのです。その「仏」という言葉を仏教語大辞典
で調べると、「真実に目覚めた人」とあります。つまり、迷っ
ているのは亡き方ではなく、私たちの方だと教えられるので

す。不安ふあんに流されることで、たくさんの人を傷つけていることにも気づかない私たちに、亡き方は仏様と成られて、「真実に目覚めてくれよ」という願いをお念仏に込めて、呼びかけて下さっているのでしょうか。

そういえば、お仏壇ぶつだんの中央ちゅうおうにおられる阿弥陀様は、立っておられますよね。仏様は、座すわっておられるのが普通ふつうです。(菩薩ぼさつや天人てんにんの像ぞうには立っているものがあります、基本きほん仏様は座すわっておられます。)中国ちゅうごくの善導ぜんどう大師だいしという方は、この立ち姿たちすがたを「軽拳けいきょ」だと、軽かるはずみな行いだと言いわれています。では、なぜ阿弥陀様が軽かるはずみであり、仏様としてすべきではない、立ち姿たちすがたをしておられるのか。それは、私たちの迷いの深さを悲しみ、思わず立ち上がりずにはおれないからなのだそうです。

お仏壇の前に座り、思わず立ち上がりずにはおれないほどの私たちの迷いの深さを見つめさせていただく。思わず立ち上がりずにはおれないほど、私たちを思って下さる阿弥陀様の願いの深さを味わう。そこに、亡き人と本当に出遇であって行く。仏様と成られた亡き人と共に生きて行く。そんな世界が開かれていくのではないのでしょうか。 ■



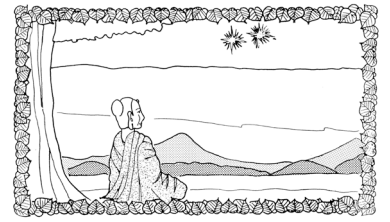
極楽寺ホームページ

随時更新しています [極楽寺.com](http://gokurakuji.com) で検索して下さい



極楽寺だよりを送りませんか

極楽寺では、都会に出られているご門徒の方や家族の方々に有縁の方々に、極楽寺だよりをお送りしています。都会の子どもさんやお孫さんに、送られてはどうでしょう。連絡先を教えてください。お寺から直接、お送りいたします。



極楽寺揭示伝道 けいじてんどう

《4月の言葉》

みやぎしずか

宮城顛という先生が、このよう

なことを言っておられます。

「仏教でいっております不思議

というのは、もつとも自然なこと

なのです。不自然なことが起こっ

たのを不思議とわれわれはいいます／けれども、実は本当の

不思議は一番当たり前なことをいうのです。」

一見何を言っておられるやら、わからないような話です。

でも考えてみれば、私たちは、不自然なこと、人間では量

ることができないようなことが起こったときに、「なんと不

思議なことだ」と言います。そして、そんな「不思議」の実

現を宗教に求めているのではないのでしょうか。

しかし宮城先生は、仏教でいうところ

の「不思議」とは、そんなことを言うの

ではないのだと教えられるのです。

長門市仙崎出身の童謡詩人金子みすゞ

さんに、『ふしぎ』という詩があります。



4月の言葉

わたしはふしぎでたまらない

黒い雲からふる雨が 銀にひかっていることが。

わたしはふしぎでたまらない

青いくわの葉たべている かいこが白くなることが。

わたしはふしぎでたまらない

たれもいじらぬ夕顔が ひとりではらりと開くのが。

わたしはふしぎでたまらない

たれにきいてもわらってて あたりまえだということが。

私たちが当たり前のように受け止めていることが、実は人

間が量ることができないような因と縁によって成り立ってい

る、「不思議」なことだったので。そのことに気づかされ

た時に、当たり前だと思っていた景色が、最高に不思議な、

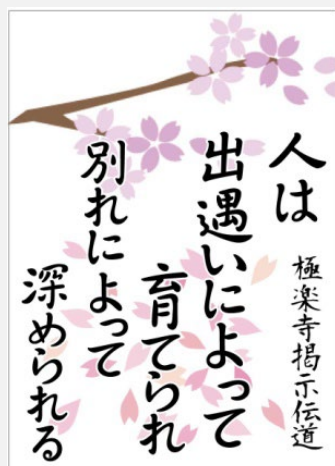
最高に尊い景色へと変わっていくのでしょうか。

そして、私といういのちが、あなたというい

のちが、量り知れない因と縁によって今ここに

ある、最高に不思議な、最高に尊いいのちなの

だと気づかされるのです。 ■



3月の言葉

《3月の言葉》

春は出遇いの季節であり、そして別れの季節でもあります。

私自身、様々な出遇

いの中で育てられてき

たことを、実感しています。印象に残る大きな出遇いもありますが、その時には気づけなかったけれどもふり返ってみる中で、大切な出遇いだったと味わうことができるものもあります。出遇いがあるからこそ、人は成長できるのです。外からの呼びかけに出遇うとき、視野が広がり、大切なことに目覚めさせられ、育てられる。いや、その出遇いの尊さへの気づきがあるからこそ、育てられていた私であったことにも気づかされるのでしょうか。

しかし、どんなに素晴らしい出遇いがあったとしても、「愛別離苦（愛する人と別れなくてはならない苦しみ。自分の力ではどうにもできない、人生の根源的な問題のひとつ。）」と示されるように、私たちは別れを避けることはできません。

別れの悲しみの中で、「こんなに悲しいのなら、出遇わ

なければよかった」と言われる方もあります。でも、その悲しみの深さとは、出遇いの尊さを表しているのではないのでしょうか。人生において、それだけ悲しめるような、かけがえない出遇いがあったということは、素晴らしいことであるはずです。

ならば、別れの悲しみの中でこそ、それまで気づくことのなかった出遇いの深さを教えられるということなのでしょう。育てられていた事実には、沢山のものをいただいていた事実には、深く頭が下がるのです。

人は、出遇いによって育てられ、そして別れの悲しみの中で深められる。そのことに気づかされた時、苦しみでしかなかった別れの悲しみも、尊いご縁へと変わるのだと教えられます。 ■

《2月の言葉》

臨床心理学者 故・河合隼雄さんは、よく「臨床心理学を専門にしていると、他人の心がわかるのではないか」と言われていたそうです。ところが河合さんは、心理学の本当の専門家の特徴とは、「人の心がいかにわからないかということ、確信をもって知っている」ことだと指摘されています。例えば、「札つきの非行少年」が連れてこら



極楽寺掲示伝道
仏さまの眼

よろこびの見える眼
尊いものを見抜く眼

2月の言葉

れる際、専門家には少年の心を分析して、非行の原因を明らかにし、対策を考えだすことを期待されるのですが、そういうこ

とはしないのだそうです。少年に對

して「悪い子」だと決めてかからない。原因は親だと決めてかからない。「簡単には決めつけられたものではない」という態度で接してい

くと、思いもよらなかったことが起こったりもすると言われるのです。

「わかった」と思って決めつけてしまうほうが、よほど楽なのである。

この子の問題は母親が原因だと、札つきの非行少年だから更生不能だ、などと決めてしまうと、自分の責任が軽くなってしまっ

かを非難するだけでものごとが片づいたような錯覚を起こしてしま

う。こんなことのために「心理学」が使われてばかり居ると、まった

くたまったものではない。(『こころの処方箋』河合隼雄)

私たちはありのままを見ようとせず、「わかった」と決めつけて安

心するために、知恵や知識を使うおうとしているのではないでしょう

か。仏教では、迷いを無明の闇と表します。暗闇の中で行き先もわか

らず迷っている姿をイメージしがちですが、そうではありません。本

当の深い闇とは、「わかつている」という思いです。「わかつている」

から、迷っていることにさえ気づかない。自分を振り返ること

い。そんな有り方を、闇という言葉であらわされているのです。

私の大好きなロックバンド、サンボマスターの『手紙』という歌に、このような一節があります。

いつもこの僕はあなたの事を

好きだという 好きだという一言で 片付けて

本当の あなたの意味を あなたの意味を・・・

俺はちっとも知らうとしなかったんだよ！

(『手紙』来たるべき音楽として』作詞山口隆)

仏様の智慧を「如実知見」(事実をありのままに、正しく見極め

ること)と言われます。その智慧の眼に照らし出されるとき、人を

決めつけて安心している私の姿に気付かされるのです。

だからといって、「嫌なヤツだ」と決めつけたあの人を許せるよ

うな、立派な人にはなれません。なれはしないのですが、自分の思

いが暴走するブレーキにはなっています。そして、「簡単には決め

つけられたものではないぞ」という態度から、思いもよらなかった

一面にも出遇えるかもしれません。それは、当たり前のように側に

いる人の、有り難さを知らされることにも通じることでしょう。

この私を照らし出し、目覚めさせ、本当のよろこびや尊さを教え

て下さるのが、仏様の智慧の眼なのだと思えられます。その眼と出

遇うことが、私の人生をより深く、豊かにして下さるのです。■



過去を知りたければ
未来を知りたければ
今の自分を
見よ

1月の言葉



極楽寺掲示伝道

と言えるでしょう。しかし、自分の今の立場をすべて人のせいにしてしまうというのも、これまた問題です。政治家が悪い、官僚が悪い、あいつが悪いとすべて人のせいでは、自分の人生と向き合うこともできないのではないのでしょうか。神頼みや占いに頼るのも、同様です。

『大無量寿経』というお経には、「身自当之、無有代者(身、みづからこれをうくるに、代わるものあることなし)」という言葉があります。私の人生は、誰も代わることが出来ないのだという意味です。つまり、どんな状況であれ「今」ここからしか始まらない。因果の道理がしめすように、これまでの過去の総決算が「今」であり、「今」をどう生きるかが未来を決めるのであれば、過去を生かすも殺すも未来をどう開くのかも「今」の生き方が決めるのでしょうか。

つまり、自分を受け容れ、今の自分と向き合うことでしか、過去を見直すことも、未来を変えることもできないのです。そこに、誰にも代わってもらえない人生、また、誰にも代わってもらわなければならない唯一の身をいただいていることに気づくことができる。そして、弱さを含めた自分の「今」を受け容れた時、自分を支えて下さる世界と出遇うことができるのだと、教えられるのです。仏法とは、都合の良い願いを適えてくれるものではありません。足下を照らすことで、自分の本当の人生と出遇わせて下さる教えなのです。■

仏教では、因果の道理を説きます。結果には、必ず因があると。だからといって、「あなたの今の状況は、すべてあなたの責任だ」という論調には同意できません。いろいろな因と縁によって、果が成り立っているわけですから、新自由主義者が言われるところの「自己責任」という言葉ですべてを切り捨てることは、あまりにも安易だ

紐の切れたお念珠 修理いたします。

お寺へお持ち下さい。もちろん、無料です。
ただし、男性用のみとなります。

房がついている女性用は、残念ながらできません。
仏具屋さんで、修理をして下さるそうです。
金額は、房が人絹の場合 1,500 円程度。
正絹の場合は 2,500 円程度。期間は、1~2ヶ月だそうです。
お寺から、お願いもできます。お気軽にどうぞ。

